

令和3年度第4回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和4年3月18日（金）10時00分～12時00分
開催場所	横浜市役所18階共用会議室みなと5
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、治田委員、日沼委員、 簗谷委員
欠席者	山口委員
オブザーバー	恵良氏
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 (1) 令和4年度事業計画及び事業評価軸について (2) 旧第一銀行横浜支店の公募について 2 その他
決定事項	
事務局	<p><b>【開会】</b> ○令和3年度第4回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p><b>【資料の確認】</b> ○配付資料の確認が行われた。</p> <p><b>【定足数の確認】</b> ○委員9名中8名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p><b>【会議の公開・非公開】</b> ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項(2)については、同条例第7条第2項に基づき非公開とするが、よろしいか。 (了承)</p> <p><b>審議事項（1）：令和4年度事業計画及び事業評価軸について</b> ＜事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。＞</p>
野原委員長	○各分科会の議長からも説明をお願いします。
日沼委員	○黄金町は、事業をどうやって見える化をしていくか、事業評価の中にどのように載せていくかということが議論になりました。これまでのアートを通したまちづくりのモデル地区という取組のブランディングがかなり進んでいるのではという前提の下、どう評価につなげていくかということが話題になりました。現在の評価シートにはまだ盛り込んではいませんが、この拠点の事業が始まった頃と現在では、何を特徴とし、強みとするかという価値も変わってきて、多様になってきているのではないかと考えているので、地域ブランディングというもの

		<p>をどう評価していくかを今後の分科会で議論していきたいという話をしています。おそらく拠点全体の共通事項でもあるかと思っておりますので、他の委員の皆様からもいろいろなお知恵をいただければと思っています。また、評価をしていくとすれば、事業者自身がブランディング効果を評価するのは難しいと思います。その点について、外部評価でブランディングの効果とか成果、それから、今後どう展開していくかというものを、ある程度コンサルテーションのような形で外部委託することも考えられるのではないかなという意見も出ています。</p> <p>岡本委員 ○急な坂スタジオは、コロナ対策を非常に適切に行いながら、稽古場利用を中止せずに行っていました。今後は、コロナの影響で稼働率が下がってしまっているものを回復するべく、新規利用団体の開拓も行っていくということです。急な坂スタジオの新たな5年間に向け、活動の柱とした創造活動支援と人材育成として、新規サポートアーティストについては、2年ぐらいかけて増やしていくということです。また、若いアーティストは、これまでとはコミュニケーションの手法が異なるところもあり、SNSの活用は不可欠ということで、新たな広報媒体の活用も検討していくとのこと。それから、最重要課題は新ディレクターの育成ですが、これについては4月に発表し、本格的に候補者の検討を開始するという事です。先ほど黄金町の説明にあった事業の見える化というのは、各拠点というよりは、共通の課題として考えるべきという意見に賛同します。</p> <p>簗谷委員 ○BankART1929は、まずスクールとショップについては、コロナ前の状況に基本的には戻したい。それ以外では、18区全体に拠点というか、まず関係をつくって、そこで活動を広げていくことにチャレンジしていきたいというお話が1つ。それから、これまでのスクールとかのアーカイブの公開、可視化についても挑戦をしていきたいということ。あともう一つ大きいのは、みなとみらい21地区全域にまたがるプログラムということで、外に出ていくようなことを頑張りたい。この3つが新しいことと分科会では理解をしています。分科会としては、方向性としては非常にチャレンジングであって、さらに新しいこと、先駆的なことをやっていきたいという姿勢が見られたと理解しております。</p> <p>菅野委員 ○象の鼻テラスは、これまでも多様なプロジェクトを実施してきましたけれども、来年度は、事業にメリハリをつけて、目的を明確化していくやり方を考えていて、事業をそうした方向性に収斂していく予定です。来年度は、新規事業を拡大していくというよりは、これまでの継続事業ということで、新しいテーマ、あるいは新しい試みはほかの拠点に比べると少ないのですけれども、拠点だけではなく、街なかに出ていく展開を計画しています。本来であれば、フェイス・ツー・フェイスであるとかワークショップをどんどんやりながら、という展開</p>
--	--	---

		<p>が望ましいのですが、現在のところは、オンラインという制限がついているところではありますが、このコロナ禍の中にあって、事業全体を中断することなく、きちんと着実に進める、という方針をまずは固めるということです。それから、全体の事業にSDGsというテーマ設定を落とし込むなど、事業の中に、横軸として現在のトレンドを取り入れていくという方向性もしっかり組み込まれています。また、評価軸に関しても、SDGsというテーマ設定に加えて、象の鼻テラスとしては、市民のウェルビーイング、市民の方たちのクオリティ・オブ・ライフ的な観点も、考慮していくことが必要ではないかというご意見もありました。</p> <p>野原委員長 ○THE BAYSは、令和3年度の事業内容を振り返ってみると、コロナ禍において活動量を著しく減らしたりすることなく、維持するための工夫はかなりやっていたということで、それなりに評価できるかなということがございました。活動量としてはよくキープできているんですけども、先ほど事業の見える化という議論がありましたが、ほかの拠点と違い、明確にディレクターみたいな方がいるわけじゃないこともあって、何をしているか市民の方々とかユーザーの方々にちょっと届きにくいのが課題だと思っております。令和4年度も、4つの軸でイベントを進めていきたいということで、中でもビジネススクールが令和3年度の活動の中でちょっとつかんだというか、比較的伸ばしていけそうなプログラムじゃないかというお話があったんですけども、それらを含めて、クリエイティブスポーツの拠点として何を目標としていくかというか、目的としていくかというのがちょっと見えにくい状況があるなど。目標像みたいなものが、官民一緒に少し共有できるといいんじゃないかという課題はあったと思っております。もう一つの議論として、毎回出てくる話でもありますが、15年の賃貸借で行っているため、「経営」は評価の対象に入れていないんです。ここも議論の分かれるところであり、賃貸借のため、事業の中身は自身でやってくださいという考え方と、事業に対してアドバイスしていく考え方がある。そのあたりの考え方を整理していく必要があるのかなと思っております。官民連携の事業で、どちらかが評価するというのではなくて、一緒にこれからどうよくするかというのをディスカッションしていくという意味で、評価のあり方ももう少し整理できないのかというご意見も含まれています。活動量としてはそれなりに高い水準を出していただいているので、その辺をうまく伸ばしながら、少し絞ったり見える化をしたりしていきながら、方向性を見出していけるといいのかなと思います。</p> <p>恵良氏 ○THE BAYSのことですが、今年で何年目が終わるのかということと、契約期間15年の中で、目標の中間確認、再設定という議論やプロセスが</p>
--	--	--

事務局	<p>あったのかということをお尋ねしたい。</p> <p>○THE BAYSにつきましては、今年で6年目が終了したところです。昨年、5年目を迎えたときに5年間の振り返りというのをやり、これからの5年間で次のフェーズに入っていくのではないかとすることを昨年の分科会でお話したと理解しております。</p>
治田委員	<p>○THE BAYSを事業者目線ですると、その条件でできることを考えたほうがよくて、横浜市としてどういう目標を持って関内のこのエリアに対してどういう役割を果たしてほしいのかを、お互いで目標設定しないと、議論の方向性が定まらないと感じましたので、そのフェーズが必要な時期に来ているのかなと思いました。ご一緒している後藤委員も、委員から意見を言われるという体制じゃなくて、こういうことをやったんだけど、どうだったかみたいな、もうちょっと視点を変えないと、この関係性だと、ちょっと厳しいですねという話もいただいたかと思うので、そのあたりをどう落としどころをつけるのか、一緒にブラッシュアップができたかなと思いました。</p>
六川副委員長	<p>○BankART1929のカフェ・ショップ事業は、どのくらいのウエートで考えられているのか。例えば収益を考えたり、在庫の負担があったり、結構大変だと思うんです。本来の事業とちょっと違うことで、収益を考えてということだと思うんですけど、その辺どんな感じなんですか。</p>
事務局	<p>○NYKの時のように、カフェがあることで、アーティストやクリエイターが集う、そこでネットワークが生まれる、ということが一番に重視しているかと思います。BankART Homeがなくなり、StationとKAIKOという2拠点になったときに、アーティストが集うとか、コミュニケーションを取るとか、また新型コロナウイルスもあり、みなとみらいの企業の方がふらっと立ち寄れるという形にもなっていないので、ぜひ人が集って、いろいろな意見交換とかネットワークづくりの場にしたいと考えていらっしゃるんだと思います。</p>
菅野委員	<p>○THE BAYSの事業についてですけども、創造界隈拠点の1つというところでの取組として、今後ですが、アートとスポーツというテーマ、あるいはスポーツとクリエイティブなプロジェクトみたいな、そういった発想のものは将来的に考えていこうとされているのでしょうか。アートとスポーツというところに関してはまだ新しい分野なので、なかなか実際的なプロジェクトは立ち上がってはいないと思うのですが、金沢21世紀美術館であるとか、あるいは東工大の伊藤亜紗さんのような、障害のある方たちと共同して、人間の機能を未来の技術と合わせるかと、非常に深い意味での研究も始まっています。何か、そのよう人間の身体機能とアートを組み合わせるようなプロジェクトが生まれると、とてもすばらしいかなと感じたものですから。</p>

事務局	<p>○現時点では、そこまではっていないかなと感じております。ただ、事業計画協定書の中では、スポーツやヘルスケアの分野のイノベーションですとか、クリエイティブ産業の創出を実現していくプラットフォームになるということも書かれておりますので、委員の皆様も新しくなったことでもありますから、原点に立ち返って、もう1回事業計画の見直し等も含めて行っていかれればと思っております。</p>
恵良氏	<p>○目標や成果の見える化の議論は各拠点で共通しているところがあります。その中で、公共空間をどう使うかは全ての拠点活動に共有される気がします。この点は市の関係部局の協力なしにはできないことですので、難しいかもしれないけれども、全体的な視点でご努力をお願いしたいと思っています。また、見える化という意味では、メディアも含めて、情報交換についての大きな考え方を持つべき時期にある、オンライン化は定着してきますので、この点もちょっと頭に置きながら進めていただけたらと思います。</p>
日沼委員	<p>○黄金町と象の鼻テラスに関わらせていただいておりますが、双方とも拠点での活動ではなく、どんどん外に出始めています。当初は拠点の中で完結することがある種の公共空間としての使い方ということで始まり、それがどんどん発展して、それが公共の、もっと社会そのものの中にダイブしていくというか、そういう理念に変わってきています。これは創造界限だけではなく、世界的にまちづくりであったりとか、ソーシャルダイブしていく意味でのアートの役割は非常に期待が高まっているので、拠点としての活動と、その中を運営している人たちがどんどんスキルを持って外に出ていく、今はそういうふうに変わってきていると本当に実感しているんです。拠点に来てもらうだけではなく、自分たちから働きかけていくという意味での展開になってきているのがあると思います。ただ一方で、外に出るのはすごくパワーが必要なことですし、拠点を飛び出しての活動がこれから広がっていくとすると、予算も減るし、スタッフも疲弊する。自分たちの達成度と社会的な評価と、フレームとか予算があるので、そこをどう考えていくのか。これから課題にはなっていくんじゃないかと、今お聞きして思いました。</p>
事務局	<p>○もともとは都心臨海部に創造界限をつくっていくため、まちの中に拠点をつくり、その周辺にネットワークをつくっていくという活動をしていただいたんですけども、この間17年間経って、都心臨海部に限らず、だんだん郊外にそういった創造界限のネットワークとかノウハウを広げていく活動がいつの間にか、ある意味、行政を引っ張る形での動きもございまして、今後、横浜市政の方向性も、都心臨海部だけではなくて、全地域的に、ウェルビーイングというか、住みやすいまち、全地域的なそういう展開が必要になってくると思います。そうい</p>

		う意味で、第2フェーズというか、第3フェーズの中で、創造界限拠点、あるいは創造都市施策が果たすべき役割という大きい観点で、改めて行政の内部でも、あるいは先生方をはじめとした外部の皆さんとも話し合っ、新しい目標を改めて設定していくような動きにつなげていければいいなと思っているところでございます。
六川副委員長		○THE BAYSの令和4年度の主な事業内容ということで、私は前から思っているのは、横浜DeNAベイスターズは横浜スタジアムを中心に横浜ベースボールタウンにしたいんだということはずっと言っています。今回、旧市庁舎街区にもベースボールタウンに向かうような施設ができますし、そういった意味で言うと、THE BAYSの活動が関内のまちづくりに寄与する、そんなような位置づけがあってもいいんじゃないのかなと思うんです。イノベーター、それなりのビジネススクールをやるとかあるんですけども、そこはメインじゃないのかなと、思っていて、だから、15年の賃貸借でセットをしてあるわけで、そういうことをやっていただくと、あのエリア全体が活性化するんですね。自分たちのことばかり考えているのではなく、もっと地域に貢献するような活動ができるんじゃないのかなと、私見ですけども、思っております。
野原委員長		○どういう位置づけで関わりがあるのかというのは、ちゃんと整理したほうがいいなと前々から思っているんで、横浜市側からも、こういうのを一緒にやっていきたいというのを自ら言わないと、そこは多分全然反応がないんじゃないかと思うので、ちょっと整理していただければと思います。
治田委員		○今のお話で、コミュニティとかまちづくりという言葉自体が横浜DeNAベイスターズさんと市側が考えているものは、お話を伺っていて違うなと思ったんです。そこの議論もしないといけないし、片思いだけではだめだなというか、町方はこう思っているとか、こういうことを求めているとかというのがずれているなという感じがしています。例えば、子ども向けのチアリーディングとか、そういうものを行っていることがまちに貢献しているとイコールで思われているのです。だから、それをバツとは言えないけれども、どうしたらそれが地域貢献になるのかみたいところまで議論をしないと、多分難しいんだろうなという感じがしました。
六川副委員長		○関内にはベイスターズ通りという通りがあるわけです。その通りの人たちはその活性化もしたいわけです。まさしくTHE BAYSは隣にあるわけで、だから、いろいろチャンスはあると思うので。
事務局		○まずは、コミュニケーションがまだまだ全然足りていないんだなというのを改めて感じますので、そこもしっかりやっていければと思います。ありがとうございます
野原委員長		○では、質問、意見がなければ、審議事項(1)については了承でよろしい

	事務局	<p>でしょうか。</p> <p>(了承)</p> <p><b>審議事項（２）：旧第一銀行横浜支店の公募について</b></p> <p>&lt;事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。&gt;</p> <p>&lt;事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュールなどについて、事務連絡が行われた。&gt;</p> <p>○これをもって、令和３年度第４回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p>
資 料		<p>①次第</p> <p>② [資料１] 委員名簿</p> <p>③ [資料２] 前回議事録（令和３年１１月２４日開催分）</p> <p>④ [資料３] 令和４年度事業計画及び事業評価軸</p> <p>⑤ [資料４] 旧第一銀行横浜支店運営団体公募要項</p>
特記事項		